

## 参考資料 症例カード記入例

認定医申請のために提出する「症例カード」の記入例（斜体で記入してある部分）です。

症例 No.

報告の日付	2012年5月23日	
報告者（発表者）	日本太郎（院長）	
所属医療機関	やまとクリニック	
標榜科目	産婦人科、内科	
患者	性別	女性
	年齢	57歳
初診日	2009年4月	
主訴	のぼせ、冷汗、不眠、うつ症状	
既往歴	3妊3産	
現病歴	51歳で閉経。	
現症（検査値など）	検査：E2：7.0未満、FSH：72.7mIU/ml	
診断名（病名）	更年期障害	
カテゴリー	婦人科	
処方	薬品名	メルスモン
	用量	1A
	投与方法	皮下注射
	注射の頻度	3～4回/週（3ヵ月目からは1～2回/週）
	治療期間	継続中
	併用療法	HRT（6ヵ月目に中止）
治療と経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初診時はかなり症状が強く、休職中であった。</li> <li>・初診時にボセルモンデポーを筋注したことで、うつ症状以外は効果が見られたので、HRTを選択し、その約2ヵ月後に本人の希望でプラセンタ療法を開始した。</li> <li>・メルスモン注射（1A/週3～4回）を開始して2ヵ月後には就労可能なまでに回復、その後6ヵ月目にはHRTを中止し、メルスモンのみを継続中。2010年4月17日の検査では、E2は32.2に上昇。</li> </ul>	
補足説明	当院は更年期障害のHRTに対して否定的ではなく、E2を単独で使う場合は、経皮吸収タイプの貼付剤、ゲル剤にしており、また、E2とレボノルゲストレルの合剤、あるいはE2と酢酸ノルエチステロンの合剤も使う機会が多い。	